

素敵な駅をつくる産学協同 『八幡前駅プロジェクト』の様子が新聞で紹介されました！

京都新聞 2013年3月19日付 朝刊に掲載

通学で使う同志社中生ら



塗装がはげた手すりをペンキで塗り替える生徒
(京都市左京区・八幡前駅)

叡電・八幡前駅美しく

手すりペンキ塗り替え

928年の開業からほとんど改修されず、23年の生徒10人が1月から駅の課題を探っている。

14日には生徒とアシヨカ・ジャパンのメンバー計8人が、明るい印象になるように黄色のペンキで手すりを塗り替えた。大きな時計を設置するなどの改修案を今月下旬に同電鉄に提案し、4月以降の取り組みを相談するという。

京都市左京区の同志社中の生徒が、通学で使う近くの叡山電鉄八幡前駅の修繕活動に取り組んでいる。85年前の駅開業以来、ほとんど未改修のため同電鉄が学校にも協力を求めた。生徒たちはペンキ

塗りなどに励み、駅は徐々に生まれ変わっていく。駅の修繕には社会起業家を支援する「アシヨカ・ジャパン」(東京都)も加わり、生徒とともに修繕方法を検討している。駅舎は1

鉄道部で3年の寺内高輝君(15)「伏見区Ⅱらは「八幡前駅はローカル駅のいい雰囲気」が漂う。多くの人に使ってもらえるように頑張りたい」と話した。

(宇都寿)

「八幡前駅プロジェクト」は、2013年に始まった同志社中学校の有志生徒と叡山電車による産学協同の「素敵な駅」をつくる取り組みです。地下鉄開通後、八幡前駅の通学利用者は中・高全体の約1割ほどまでに激減し、また周辺地域の住民も少子高齢化が進み、過去の活気を失っている八幡前駅。「町の人にとっても、同志社にとっても大切な八幡前駅を、もう一度素敵な駅にしたい。」その思いで、これまでに「手すりの塗装」「壁新聞の季刊発行」などの提案・取り組みを行ってきました。

“寂しい”“暗い”といった駅が抱える課題を、中学生が演出した企画で“賑わい”や“明るさ”に変えたいと願っています。本校生徒のみならず、周辺地域住民の方々や観光客にとっても駅への愛着を持っていただけると期待しています。

PBL(Problem Based Learning)やアントレプレナーシップ教育も注目される今、京都の街に根差した本プロジェクトは、中学生に課題解決能力や企画提案力、チームワークやリーダーシップを身につける学びの場となっています。